

## 5歳児 指導案

### 「自ら選んで遊ぶ」

奈良教育大学附属幼稚園

研修教諭 白石 真季

【( )内は「持続可能な社会の担い手となる能力・態度」】

#### 1. 子どもの姿(き2くみ 男児7名 女児14名 計21名)と育ちの読み取り

- ・毎日の遊びを一緒に過ごす気の合う友達を基盤に、遊びを面白くするためにお互い「こうするのはどう?」と自分の思いを言葉にして伝えている姿が見られるようになってきている。ほとんどの子が友達と一緒にお互いの実現したいことにおかたて意思や考えを共有しながら遊びを進めていくことを楽しんでいるようである。
- ・友達の広がりも増えつつあるようで、日によって遊ぶ場所や遊びの中でメンバーが変わることがある。次の遊びに向かうために移動するのもそのメンバーで動くことが多く、移動したその場でも友達と自分のしたい遊びに集中し遊びこんでいる姿が見られる。このように、自分のしたい遊び・思いを基盤に、気の合う友達だけではなく遊ぶ場所や様々な遊びの中の友達とも、お互いの共通した遊びで遊びこむようになってきている。その一方で、気の合う友達との安定した中で遊ぶことを楽しむ子もいる。
- ・以前からイメージを共有して遊んではいるが、マルチパネや素材そのもののみを媒体にイメージの共有がなされることが多かった。最近では、イメージがそれぞれ実際のものに似せて作ったものやその人物の言動・動作をリアルに再現し、それを共有して遊ぶことを楽しむ姿が見られる。そのため、多くの人がイメージを共有しやすくなっているからか遊びが長続きするようになってきている。
- ・片付けに関しては、声掛けがなされて意欲的に片づけようとする子や何度か担任に声をかけられて動く子、片付けながら違う遊びにそれてしまう子など様々な様子が見られる。そのため、片付けが完了するために時間がかかることが多い。片付けをやり始めると友達と協力し合い片づけを進める姿がみられる。今のところは、自主的に片付けることには意識が向くのに時間がかかるようだ。

また、昼から遊ぶものや遊びの継続のために片づけずそのまま残しているものもある。

- ・運動遊び参観を経て、活動準備などの節目の切り替えについては、全体的には個人差は大きいですが、次は何をする時間なのかを意識して、担任からの話や指示を聞くために椅子を出し座って静かに担任のほうを見るなど次の活動準備をしようとしている子の姿も見られるようになってきた。

#### 2. 活動のねらい

- 友達とお互いの思いを共有して遊びをすすめていく面白さを感じる。(コミュニケーションを行う力)
- 自分のすべきことに気づく。(進んで参加する態度)

#### 3. 活動について <◆> 保育者の援助・留意点, <●> 環境構成, <\_> 読み取り

##### <<自ら選んで遊ぶ>>

- ◆言葉をつかって子ども同士で伝えあっている場面は見守るようにし、必要があれば仲介して言葉を補ったり、一緒に遊んだりしながら自分の思いが伝えられるようにする。また、お互いの考えや思いが伝わることで友達と一緒に遊ぶことの楽しさが感じられるようにする。(コミュニケーション)
- ◆子どもたちが自分の目的を実現しようとしていく中で、その気持ちを途切れさせずに遊び込めるようハザードを意識しながらも子どもたちが思う存分、自由に表現・行動をしているところを見守るようにする。(自由)
- 事前に子どもたちの遊び場や遊具などに危険箇所“ハザード”がないか保育者で情報共有したり、修理や環境

の再構成をしておく。

### 《片付け》

- ◆友達と一緒に遊んだことや今日の遊びが楽しかったことを共有・共感したり、言葉に出して伝えたりして次の遊びの時間への期待につなげられるようにする。(期待)
- ◆一生懸命片付けている子どもや自ら自分ができることを見つけて片づけている子どもを認め、ほかの子どもにも片付けの意欲を引き出し、片付いた時の気持ちよさや達成感が感じられる声掛けをする。(自主性・主体性)
- ◆遊びから気持ちが切り替えられない子には、どれだけ自分が片付けに時間がかかりそうかと声をかけ自分が遊んでいたものの片付けの時間に意識を持たせ自分のすべきことに気づけるような声掛けをするようにする。

### 《前日から予想される遊びについてと保育者の◆援助・●環境構成》

#### 《積み木遊び》

お店屋さんの店を組み立てたり、船など乗り物のイメージを持って組み立てたりしており、そこを拠点に遊びが展開されている。組み立てたものの中にもそれぞれ子どもたちのこだわりがあり、お店屋さんの看板を貼ったり、船の運転席を作りガムテープなどで動かないように補強したり、ほかの友達も乗れるように座る場所を作ったりと自分たちのイメージとこだわりをその場の遊びに合わせて工夫することを楽しむ姿も見られる。また、積み木で作ったものを拠点としてお店屋さんごっこの場

に買い物に行ったり積み木のうえで買ったものを友達と共有し会話をすることを楽しんだりする姿から、自分なりにイメージして作ったものを通して友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる様子がうかがえる。

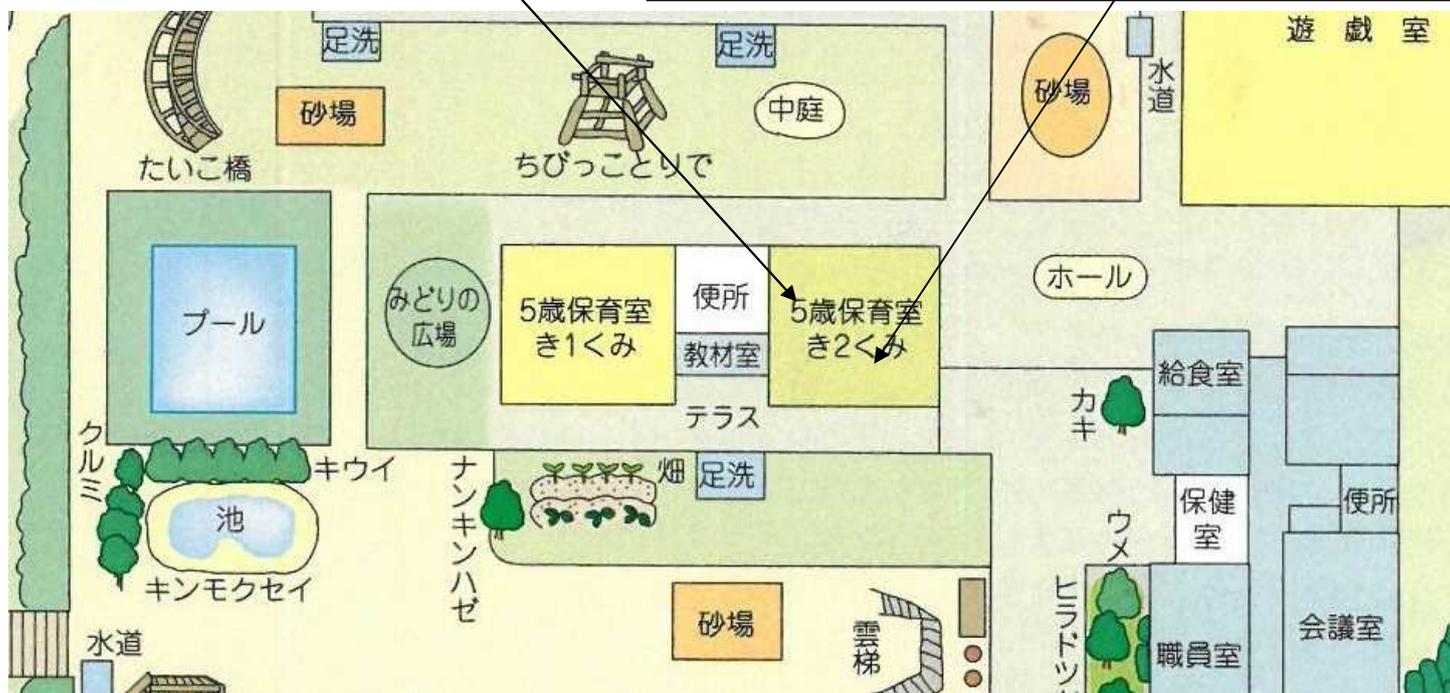
- ◆それぞれの思いを読み取り、子どもたちから出た様々な提案の言葉を繰り返したり、共感したりしながらそこにいる子どもたちにそれぞれの思いが共有できるようにする。(共感・共有)

#### 《お店屋さんごっこ》

先月のY児のドングリ屋さんから始まったお店屋さんだが、遊びが友達に広がり継続している。店番がしたい子や、商品を作りたい子、買いに行きたい子などそれぞれ思いを持ってお店屋さんにかかわることを楽しんでいるようだ。商品のバリエーションも増え友達に作り方を教えてもらいそこに自分のオリジナルを加える姿も見られるようになってきている。

また、きくみのスーパーマーケットに誘われ、足を運ぶ子もいたが、まだ自分たちのお店屋さんで遊ぶことを楽しんでいるようであるため、クラス間で遊ばれることは少ないようだ。お金のやり取りも行われており、中には硬貨と紙幣の違い(硬貨より紙幣の方は値段が高い。など)もわかっている子もいるようで丸いお金と四角いお金が用意されている。そのお金は、銀行と書かれた箱から自由にとっていいこととしており、お金で商品のやり取りをすることも楽しんでいることがうかがえる。

- ◆それぞれの思いを読み取り、足りない役割の部分に入り一緒に楽しめるようにする。
- 様々な素材を使って商品が作れるように少なくなっている材料を増やしたりして使えそうな材料をおいておく。(多様性)
- 商品を作っている子とお店さんが近くなるようにし、商品を作っている子とお店さんが繋がってお互いの存在や一体感を感じられるようにする。(相互性・つながり)



《戦いごっこ》

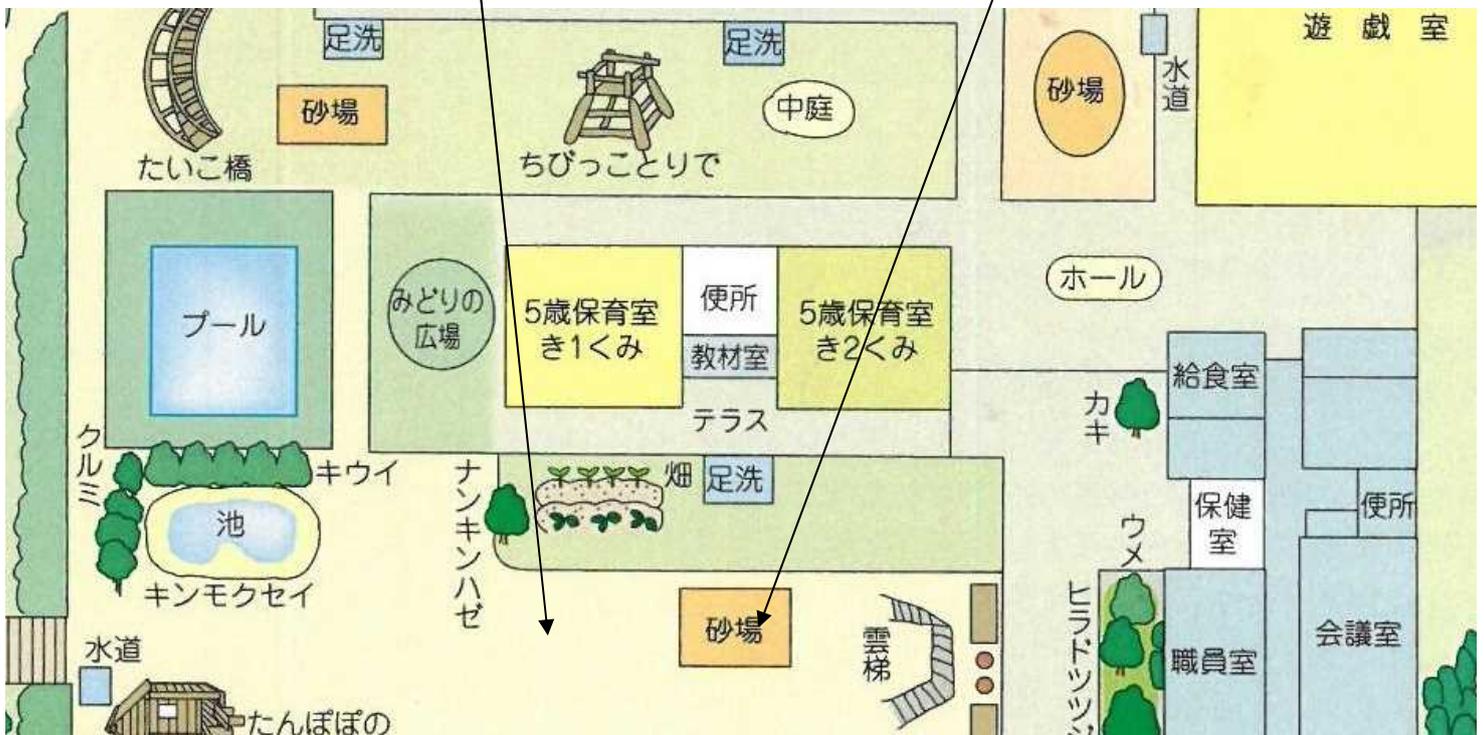
決まった子が遊ぶことも多いが、先月から継続して“鬼滅ごっこ”や“戦いごっこ”をしており、それぞれイメージを持ちながら遊んでいる姿が見られる。友達と同じイメージを共有してなりきって遊ぶことが楽しいようだ。その中で、場所に合わせて技を決めあったり、今日は刀の稽古、今日のご飯づくりなどイメージを重ねて役になりきったまま別の遊びをしたりする様子も見られるようになってきている。

- ◆子どもたちの世界観を壊さず楽しいと思っていることを読み取り見守りつつ、必要に応じて新しい展開を投げかけたり環境に必要なものを提案したりして広がっていきけるようにする。(再考)
- ◆同じイメージの中で会話を楽しく遊ぶ姿を認め、友達と一緒に遊ぶ心地よさを感じられるようにする。(コミュニケーション)

《砂場遊び》

砂場遊びは、遊ぶ日と遊ばない日がある。遊ぶ日は、穴を掘って温泉を作ったりしている姿やサラ砂をつくっている姿が見られる。ままごとができる机の場所では砂や泥で「ケーキをたくさん作る！」と食べ物などつくりたいものの目的をもって作る姿がみられる。その中でも、香りのする葉をみつけてそれを使ったり、泥団子に葉をくっつけるために葉を濡らしてみたりとそれぞれのこだわりと工夫がみられ、それを周りの子が真似したり、アレンジを加えたりしており、新たな自然物を見つけてきて取り入れることも楽しんでいるようだ。

- ◆その日によって子どもたちの思いや目的が違うため、子どもたちの遊ぶ様子を見守りながら思いを読み取り、その思いに寄り添いながら一緒に遊び、やりたいことに力を発揮できるようにする。(試行錯誤)
- ◆子どもたちが見つけてきた自然物がどんなものかと一緒に見て名前を確認したりして自然物にも興味を湧くような声掛けをするようにする。(興味・関心)
- 自然物を探す際に、園の地図があることを知らせ園にあるさまざまな自然物について興味を持てるようにし、ほしい自然物の名前などがわかるようにする。(多様性)



## 4. ESD との関連

### 活動を通して働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- 連携性・ ・友達と協力して遊びや生活を進めるためには、友達と関わりながら自分の思いを相手にわかるように伝えるだけではなく、相手の思いも傾聴しコミュニケーションを図っていく必要があるということ。
- 責任性・ ・自分たちが快適に園生活を送るためには、自分がかかわったものに責任を持ち、自ら動いたり友達と協力したりしながらやりとげることが大切であるということ。

### 活動を通して育てたい ESD の資質・能力

- コミュニケーションを行う力  
遊びの中で自分の気持ちや考えを友達に伝えるとともに、一緒に遊んでいる友達の気持ちや考えを聞き取り、より遊びを面白く、より遊び込めるように積極的にコミュニケーションを行う力。
- 進んで参加する態度  
集団や園生活における自分の発言や行動に責任を持ち、周りを見て自分がなにをすべきかを考えたうえで、ものごとに自主的・主体的に参加しようとする態度。

### 活動で変容を促す ESD の価値観

- 世代内の公正  
園生活の中で自分勝手に過ごすのではなく、周りの友達の様子を見て援助をしたり、コミュニケーションを行い協力しあいながら遊びをすすめたり、片付けをしたりすることで同じ時間を過ごすみんなが楽しく過ごせるようにすることが大切である。
- 幸福感に敏感になる  
自分の回りには、友達や保育者や保護者がおり、その人たちとの信頼関係を築いてきたから安定した生活が送れている。

### 達成が期待される SDGs

- ・10 人や国の不平等をなくそう
- ・16 平和と公正をすべての人に
- ・17 パートナーシップで目標を達成しよう

## 5. その日の新たな遊びと ESD

### 〈池の枝拾い〉

HA 児と H0 児が金魚の住んでいる池の中の枝を拾っていたところを見つけ「なにをしているの？」と尋ねると「金魚さんが木の枝でけがをしないために枝を拾ってきれいにしているの。」と答えた。保育者も「そうだね。危ないかもしれないね、とってあげよう。」と一緒に池の中の枝を拾っているとそれを見ていた周りの子が「何をしているの？」と集まり、HA 児や H0 児に事情をきいて「わたしも・ぼくもする！」と枝や落ち葉などを見つけてきた枝などで拾いだした。次第に枝を使ったりしながら池の中にあるものを取ることが楽しくなっているようだった。

自然との交歓の中で、HA 児と H0 児の金魚のための行動がしだいに遊びになり、周りの友達に広がった。この遊びの中には、自然の中にある金魚の池という自然との交歓の中で、遊びの入り口が生き物のためにという利他的な行動と、友達と一緒にすると楽しいという人との交歓が含まれていたと考える。